

# 住みたい、住み続けたいまちを目指して

さとう えいち  
うつのみや  
宇都宮市長(栃木県) 佐藤 栄一

Eiichi Sato



## 「住みよさ」全国1位のまち 宇都宮

宇都宮市は、東京から北に約100km、栃木県の中央に位置しています。明治29年4月に市制施行し、人口3万5000人の都市として歩みはじめて以来、昨年4月に市制120周年を迎え、人口は約52万人となりました。優れた立地特性や豊かな自然、快適な道路網、安全でおいしい農作物など、人が暮らす上で必要なものが高い水準で揃っており、北関東の中核拠点として発展してきました。

また、民間調査会社による「住みよさ」ランキングでは、4年連続で、50万人以上の都市の中で全国第1位の評価をいただくなど、生活拠点としての豊かさや楽しさなどの魅力にあふれるまちです。

現在、本市では、人口減少社会にあっても持続的に発展するまちの実現に向け、人やまちの機能が拠点に集積し、連携する「ネットワーク型コンパクトシティ」を目指したまちづくりに取り組んでおり、その仕組みの1つとして、日本で初めて全線新設によるLRT(次世代型路面電車システム)の整備を進めています。

本市には全国的にも知名度が高い「餃子」を始め、「ジャズ」「カクテル」や「石の里大谷」など観光客の皆さまをお迎えできるさまざまな観光資源のほか、本市を拠点としたプロスポーツチーム(サッカー・バス

ケットボール・自転車)があります。

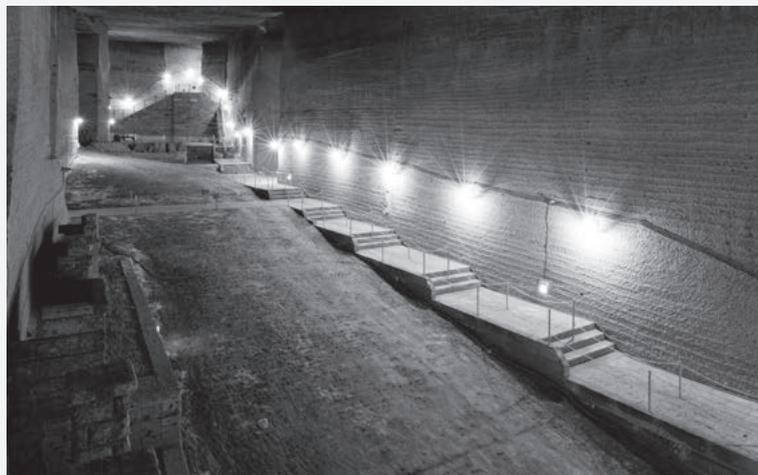
特に、毎年10月には、アジア最高峰の自転車ロードレース「ジャパンカップサイクルロードレース」を開催しており、世界トップクラスの選手が宇都宮市に集結し、国内はもとより世界からも注目を集めています。本年度は25回目の記念大会を迎え、過去最高となる13万5000人も皆さまにご来場いただき、市内は熱気と興奮に包まれました。

また、昨年7月には、3人制バスケットボールの国際大会である「3×3(スリーバイスリー)ワールドツアー宇都宮マスターズ」が初めて本市で開催され、インターネットを通じて118の国・地域に配信されるなど、スポーツを通じて、本市の存在感を国内外に広く発信することができました。

## 読書と鍋と自転車と 趣味と健康づくり

私の趣味は読書です。どんな本でも読みますが、歴史小説を読むことが多いです。また、集中力を養うためにも、本を読むことは大切だと考えており、将来を担う子どもたちにもぜひ本をたくさん読んでほしいと考えています。

これは、本市の自慢の一つですが、本市では平成18年度から、市内の全小中学校に1名ずつ司書の先生を配置しています。それまでは、司書の仕事を専任で行う職員は



夏でも気温が10度以下の深さ30mに達する「大谷石採掘場跡」(大谷資料館)

いなかったため、子どもたちが学校の図書室で本を借りることが少なく、読書の平均量がかなり低い状況でした。以前より、子どもたちの学力向上に向けてさまざまな試みを検討してきましたが、やはり、読む力を育てていくことで読解力が高まり、結果として学力の向上につながっていくと思います。司書の先生の配置後、読み聞かせや図書室に「おすすめの本」のコーナーを作るなど、さまざまな工夫をして、子どもたちにも楽しく本を読んでもらえるようになるなど、その成果が表れ、平成19年度には読書量が小中学生ともに約2倍となり、その



ジャパンカップサイクルロードレースのパレード走行に参加する筆者

後、読書量はさらに増加し、平成27年度においては、1カ月の読書量が小学校で29・7冊、中学校で10・3冊と、全国平均の約2・5倍となっています。

子どもたちには、本を読むことをもっと好きになってもらい、いつでも身の回りに本がある、読みたい本が読めるという環境づくりにつなげていきたいと考えています。

私の健康づくりですが、日々の市長の業務をしつかりと行うためには、自身の健康づくりが欠かせませんので、普段から規則正しい生活と適度な運動を心掛けています。

食事は、バランス良く3食とることを心掛けるとともに、毎日を2リットル以上飲むこと、そして、睡眠時間を6時間以上とるようにしています。特に、食べ物に関しては豆腐と野菜が好きで、湯豆腐は夏でも汗をかきながら食べています。自宅で夕飯を食べるときはきままつて湯豆腐か野菜をたくさん入れた鍋を食べています。

また、運動は、趣味も兼ねて自転車に乗っています。適度な運動は健康づくりに効果があるだけでなく、気分転換を図れるなど、有意義に時間を過ごすことができます。休日は、往復30〜40kmを走ることもあります。体力の持続が目的であり、帰りはさすがに辛いです。ジャパンカップを開催する「自転車のまち・うつのみや」の市長として、気合いを入れて頑張っています。

### 父が残した「雨好晴奇」

私が、市長として常に胸に刻んできた言葉が2つあります。その1つは、論語の一説である「義を見てせざるは勇無きなり」です。これは、人として行うべき正義と知りながら、それをしないことは、勇気が無いのと同じことであるという意味です。

もう1つは、「雨好晴奇」です。この言葉は、私が22歳の時に亡くなった、人生の師であり、目標でもある父が残した言葉です。この言葉には、「人生には晴れた日より、雨のような辛い日のほうが多いのだ



市制施行120周年の平成28年に開催された「2016全国餃子サミット&全国餃子祭りinうつのみや」

から、辛いことを好む人間になれ」という意味が込められています。

私は、昨年11月の選挙におきまして、4期目の市政運営をお預かりすることになりました。この負託にお応えするため、これらの言葉を常に念頭に置きながら、何事にも信念と勇気を持ち、さまざまな困難にも決して屈することなく、最後までやり遂げるといふ気概を持って、今を生きる市民の皆さま、そして、将来を担う子どもたちのために頼りがいのある骨格の強い「未来都市うつのみや」の実現に向け、全力で取り組んでまいります。